

# わが家のローズガーデンへようこそ!



シリーズ まち・ひと・しごと  
# 020 岩下邸ローズガーデン 岩下 正浩 さん

バラを通じてコミュニケーションを取ることが嬉しい  
バラを見て町民の方々にも楽しんでもらいたい



グラハム・トーマス



センチメンタル



アンクル・ウォーター



紫雲

優しい香りに包まれた、個人  
宅のローズガーデン

新緑の深まりがピークを迎えた5月中旬

利根ニュータウンの住宅街で、自宅の庭に見事なバラ園をつくり、道行く人々の目を楽しませているお宅があると聞き、さっそく訪問してみました。

「こんにちは、どうぞ中へ!」と笑顔で出迎えてくれたのは、バラ園の家主、岩下正浩さん。招かれて、バラのアーチをくぐり抜け、自慢のお庭に一步足を踏み入れた途端、所狭しと咲き誇るバラの花と優しい香りに包まれ、思わず「すごい!」と声を上げてしまったほど。

元国鉄職員だったという、岩下さんが、利根町に移り住んできたのは、今から31年前、自宅の庭でバラを育て始めたのもこのころからだそうです。

バラ栽培を始めたきっかけは、国鉄時代に、ストレス解消のつもりで宿舎の庭に数本のバラの苗木を植えたのがはじまり。

それが今では、自宅の庭だけでは収まりきらず、近所に約70坪の土地を取得し、合計で約140種類150本のバラを栽培し、近所でも評判のローズガーデンへと成長しました。

## バラを通して人とのコミュニケーションを大切にしたい

国鉄で仕事をしていたころは、自宅で栽培したバラを駅のコンコースに飾り、お客さまに楽しんでもらうことが、自分にとっても喜びとなり、「バラを通じてコミュニケーションを取れたことが嬉しかった。」という岩下さん。

今では、もつとたくさんの方に手塩にかけて自慢のバラを楽しんでもらいたい。バラを通して、人との関りを深めたい。との思いから、自宅のバラ園を、見学自由なオープンガーデンにして、一般公開しています。

公益財団法人日本ばら会インストラクターの資格を持つ岩下さんのバラ園は、満開の時期には遠方からも見学者が訪れるようになり、時にはバラの育て方や栽培についての相談を受けることも。

通りがかりの近所の方に声をかけられたり、切り花を差し上げた方から「挿し木したバラが咲きました。」などと報告をいただけるのも喜びのひとつだそうです。



奥さまの優子さんと二人三脚で築きあげたバラ園は、シーズンになると連日多くの見学者が訪れます



春の見ごろは5月末まで。次回の見ごろは10月中旬なのでぜひ!

## バラの開花シーズンは、春と秋の年2回

「バラの開花シーズンは、春と秋。年2回楽しめるんです。」という岩下さん。自宅のバラ園も、例年5月と10月に見ごろを迎えるそうです。「実は、春よりも秋のバラの方が色が濃くて綺麗なんです。それから、秋は涼しい分、長い期間花を楽しめます。」

また、気温が上がる午後より、午前中の方がより良い状態のバラを見ることができそうです。

8年前に資格を取得し、「日本ばら会インストラクター」としての顔も持つ岩下さんは、昨年まで西武ドームで開催されていた国際バラとガーデニングショーに育てたバラを出展し、最優秀賞を受賞したこともあるそうです。

また、町内で「剪定方法や肥料、薬剤、散布のコツなどについて相談があれば伺います。」とのこと。

## 今は現状維持を、ゆくゆくは自分のバラを

31年バラを栽培してきて「苦労」と思ったことはないという岩下さんですが、バラの手入れは一年中続くので、「寒い時期の手入れが大変。でも、綺麗に咲くバラをたくさんの方に見てもらいたい。楽しいんでもらいたい」という思いで冬の作業を頑張っているとのことでした。

また、「バラに関しては、私はノータッチです。」とおっしゃる奥さまの優子さんですが、ご主人が不在の時には、150本のバラに水をやり、見学に訪れた方を丁寧に案内しています。

ご夫婦で来園者におもてなしをしている姿を見ると、お二人のバラに対する愛情と、自宅のバラ園を大切にされている気持ちがとても伝わってきます。

## 岩下邸ローズガーデン



利根町布川 2308-7 ☎ 0297-68-8201 📍あり

【お願い】オープンガーデンは自由見学ですが、個人宅ですので、岩下さんやご近所のご迷惑にならないようご協力をお願いします。

## 岩下さんから、バラ栽培のワンポイントアドバイス



- ①水やり：水やりは大切
- ②肥料は薄く小まめに：肥料はやりすぎてもダメ!
- ③農薬も薄く小まめに：農薬が濃すぎると薬害をおこす

そんな岩下さんに今後の展望・夢について伺うと「今は仕事もしているし、これ以上増やすことはできないので、今あるバラたちを枯らさないように、現状維持していくことが目標ですね。バラ栽培は手間がかかるから仕事を引退したら、いつかゆっくりと自分のオリジナルのバラを作ってみたいです。でも、そのころは体力が落ちてるから無理かな」と笑顔で話す岩下さん。

現在、世界で約2万5千〜3万種あるといわれているバラ。いつか、岩下さんが交配させた新種のバラをこのオープンガーデンで拝見できる日が来るかもしれません。

年2回楽しめるというバラ。次回の見ごろは、10月中旬。また満開のバラたちに合えるのが今から楽しみです。